

## 課題名 社会的経済による新しい地域社会形成と成人教育の役割に関する比較研究

研究代表者名 高橋 満 (成人継続教育論講座)

研究組織等 田中光晴 (共同学位プロジェクト)

朴 賢淑 (共同学位プロジェクト)

桔川純子 (成人継続教育論コース)

姜 大仲 (韓国ソウル大学校)

鄭 賢卿 (韓国慶熙大学校)

パク・ジスク (韓国ソウル大学校・大学院)

シン・ミンソン (韓国ソウル大学校・大学院)

### 研究目的と方法

この研究は、社会的経済（社会的企業・協同組合など）の実践をすすめている組織における学習のプロセスと、その意義を明らかにし、持続可能な地域社会をつくる現代的課題に教育学の視点から応えるところに目的がある。共同学位プロジェクトで研究・教育上の交流をすすめつつある韓国ソウル大学等との共同研究としてすすめていく。教員の指導のもとに大学院生の共同研究を重視することも研究のねらいの一つである。

日本と韓国の社会的経済としての性格をもつ事業体を対象に選定し、①事業体の活動をとおして実現してきた成果を確認する、②参加者たちのライフコースと、参加の深まりのなかで学習がどのような意味をもったのかを明らかにする、③共同研究会を開催し、比較の視点から検討する。事例としては、FEC 地域循環システム（食糧循環、エネルギー循環、ケア循環システムの統合）を考慮して新しい地域社会をつくる学習の意義を明らかにする。

### 研究経過

- (1) 研究を推進するにあたって、教育ネットワークセンターの助成とともに、他の経費をもとにしてマッチングファンドで研究を推進した。それぞれの国での研究をすすめつつ、年度内に 2 度の研究会を開催して共通理解をつくりつつ共同研究を推進することにした。
- (2) 日本のグループは、韓国水原市の 2 つのまちづくり事業を行っている団体のリーダーにヒヤリングを行った。その活動とは、①芸術活動とコミュニティカフェをとおしたまちづくり、②水原市内の市場の芸術をとおした活性化の取り組み、である。
- (3) 調査の経過は以下のとおりである。

2013 年

8 月：小規模宅養老施設調査（長野県東御市）

9月：韓国ソウル大学で研究会及び水原市活動概要と代表のライフコースのヒヤリング

10月：日韓学術交流研究大会で研究発表 高橋満・姜大仲共同発表

NPOのガバナンスと社会教育・平生教育の役割：日韓比較研究のための試論

11月：労働者協同組合の社会的企業調査（宮城県石巻市）

2014年

2月：東北大学で共同研究会の開催及び登米市・南三陸町の現地調査

## 研究の成果

- (1) 2013年10月に開催された日本社会教育学会と韓国平生教育学会の日韓学術交流研究大会において共同研究発表を行った。発表題目は、「NPOのガバナンスと社会教育・平生教育の役割：日韓比較研究のための試論」（高橋満・姜大仲）である。ここでは、研究テーマにかかわる生涯学習をめぐる政策・制度の変容をどのように見るのか、という点を検討するとともに（高橋）、韓国の一つの地域社会を事例にして、そこでの社会的企業（協同組合をふくむ）の活動の成人教育的意義について論じている。

高橋満・姜大仲「NPOと生涯学習・平生教育のガバナンスの再編—日韓比較研究への試論」第4回日韓学術交流研究大会報告集。

- (2) その後の両国での研究をもとにして、2014年2月22-23日には、両大学の大学院生を中心にした研究発表会及び今年度の共同研究の成果と今後の研究計画を練るべく研究会を東北大学で開催した。ここでの大学院生の発表は、以下のようである。

1. 市民教育プログラムと地域参加  
パク・ジスク（ソウル大学校師範大学・博士課程）
2. 国際結婚女性の起業と社会参加  
南紅玉（東北大学大学院教育学研究科・博士課程）
3. 地域づくりと生涯学習：ソンミサン・マウルを事例として  
桔川純子（東北大学大学院教育学研究科・博士課程）
4. 地域活動家の生活と学習に関する研究  
シン・ミンソン（ソウル大学校師範大学・博士課程）

2月23日（日）から、宮城県登米市の迫公民館及びとめ市民活動プラザを訪問してヒヤリングを行うとともに、南三陸町の被災地を見学してきた。

- (3) この学習会をとおして、今後の共同研究の計画について合意をえることができた。

来年度は、日本では、宮城県登米市の公民館体制の制度的変容と「地域計画づくり」について調査をすすめること、韓国は光明市の生涯学習体制と事業について調査をすすめ、再度、共同研究会を開催することにした。